

ちよつといし話

～ 迎（庚寅）春 ～

22年1月1日

素晴らしい夕日を拝みながら年を越え、素晴らしい御来光を拝みながら光顔巍巍こうげんぎぎとして新年を迎えられました事、喜びの中の喜びで御座います。道元禅師は「起きはかならず時節到来なり、時は起なるがゆえに。」と時は流れ時節に従う、自然に正月が来ると云う事でしょう。平成も22年、10年に一度重なる数字、不況の中ではありますが何とか喜び事が重なる幸せを味わいたいと思います。法然上人の弟子親鸞聖人は「明日ありと思う心のあだ櫻、夜半よはに嵐の吹かぬものかは」と詠まれました。まさに、人間の一生は長く遠いと思いがちですが、唯々、今日一日の積み重ねです。大切に生きることです。なぜならば人の一生には長短があるからです。「少しずつ、ちよつとだけよ」がやがて積もり積もって山となります。勿論、善き事も悪しき事もです。志すのも心、惑わすのも心です。善に成るのか、悪に成るのか、心の作用で決まってしまいます。私は信仰心が善き道に導いて下さると確信致しております。空海大師は「昇墜しょうついは他の意あらに非ず、衰すい栄えいは我が是非ぜひなり」と、栄枯盛衰は結果をみれば原因は人のせいで無く自分のせいであると言う事でしょう。人間は腹が減れば苛立ちいらだを覚え、自身の不甲斐ふがいなさにも苛立ちを覚え、進学、就職、恋愛、仕事等々至る所でストレスを溜めてたしまいます。よく湯飲みに書かれている文に「人を大きく先にして、己は小さく次にせよ、腹を立てずに寝せておけ、心は広く丸くもて、気はなるべく長くせよ。」確かに善き事の運びが出来るとは思いますが、一旦緩急いったんかんきゅうに及べば中々思うようには行かないのが現状でしょう。世渡りに〇〇らしく、〇〇らしくない、とか〇〇にふさわしい、〇〇にふさわしくない、とかございます。己が社会生活おのをする中で常に自分を鏡に照らし合わせ、己が姿を見つめながら正しい方向に進みたいと思います。今年も精進し、家門の和合、社内の和合、社会の和合、地球上での生息の和合が取れ、平和なそして幸せな生活が出来ます事を念願するのみです。

合掌

善壽界善入院油掛地藏尊